

三河武士のやかた家康館

令和3年度下半期企画展示予定

特別展示室 及び 1階展示室		
会期		展覧会名称
始	至	
令和3年 9月4日(土)	11月14日(日)	江戸時代の治安維持 ～捕者と触書から探る～
展示概要	江戸時代の治安について考えるとき、一般的には「安全で、犯罪は少なかった」といわれますが、実際に古文書を読んでいくと犯罪や事件は頻繁に起こっていたように思われます。江戸の治安維持を担っていたのは、三奉行のひとつである「町奉行」で、芝居・映画・テレビドラマなど、江戸時代を舞台にした「時代劇」の罪人を取り締まる大立ち回り、いわゆる「捕者シーン」での活躍は非常に有名です。 本展覧会では罪人を召しとる「捕者」において使用された様々な捕者道具や、捕者シーンを描いた浮世絵をご紹介します。また、江戸時代の全国指名手配書である人相書や、法令を板面に記して掲示された高札などの「触書」も併せて展示します。本展の開催が江戸時代の捕者及び法制史についてご理解を深めていただく機会の一助になれば幸いです。	
11月20日(土)	令和4年 1月30日(日)	開館40周年記念プレ企画展 家康、十九にして立つ ～岡崎時代の家康と家臣～
展示概要	天下人として江戸幕府を開き、太平の世を創り上げた徳川家康は、天文11年(1542)12月26日に三河国岡崎城で生まれました。家康は先の見えない戦乱の中で幼少時より経験した苦難を糧に、永禄3年(1560)の桶狭間の戦いを契機に今川氏から十九歳で独立すると、岡崎城を本拠として新たな時代を切り拓いていきます。その足固めとなった10年間の岡崎在城時代の家康と、先祖の代から松平氏に仕え苦難の時代を周囲で支えた家臣たちとその戦いについて紹介します。 昭和57年(1982)11月3日に開館した三河武士のやかた家康館は、令和4年(2022)に40周年を迎えます。今回の展覧会は、徳川家康の生涯と辛苦の道とともに歩んだ三河武士をテーマとしてきた当館の中で、特に武将としての形成期に焦点をあてたもので、青年家康と家臣たちに想いをはせていただければ幸いです。	
2月5日(土)	4月17日(日)	秘蔵の逸品！地元愛刀家の日本刀展
展示概要	日本刀は武器であると同時に、優れた美術品であり、その輝きはおよそ1,000年の間、多くの人々の心を魅了し続けています。本展覧会では、地元でご活躍される愛刀家の方々が所持する「愛刀」― 秘蔵の逸品を大公開します。また、尾張・三河地方を中心とする地元の刀工作品もご紹介します。日本が世界に誇る文化財である日本刀の魅力に触れていただければ幸いです。	

開館時間：9:00～17:00(入館は16:30まで)
入場料：大人(中学生以上)360円・小人(5歳以上)200円
休館日：年末(12月29日～12月31日)

※各企画展の詳細については内容が決定し次第、ホームページ等で随時公表していきます。
※都合により企画展のタイトルを含めた内容及び会期を変更する場合がございます。ご了承ください。

三河武士のやかた家康館